災害派遣職員レポート

№１１　Ｈ２３.５.１０

５月８日から気仙沼に派遣された　えびな南の特別養護課　中橋功職員、５月１０日から陸前高田に派遣された　中心荘　白石智職員から現地における様子が報告されました。
みなさん、かなりハードな働きですが、元気に頑張ってくださることを願っています。

えびな南高齢者施設　中橋さんより

５月８日１５時に現地に到着し、１６時から勤務に入りました。
２０時まで勤務し、８時間の休憩をとった後、 朝の４時から８時まで勤務に入りました。
４時間勤務し、８時間休むというローテーションになりそうです。
食事は３食配給されるので、持参の必要はないようです。
暖かいので寝袋を使用しないで寝ましたが、夜間は冷えました。
今晩から寝袋を使用して、眠ります。

中心荘　白石職員より

お疲れ様です。今日現地入りして引き続き、ミーティングをし今日から夜勤になります。
社協の方と話した所、現在岩手支部、介護福祉士会、中心会で回していますが岩手支部が
今月半ばには中止され介護福祉士会と中心会だけになるそうです。そこで今後は滞在期間の長い中心会がリーダーになって欲しいとの話しです。勤務時間は長く仮眠以外は利用者の見守りが多いです。徐々に被災された方は受け入れ先など減ってはいますが７月までは継続らしいです。今日は皆さんとレクや談話、注意の必要な方など情報集めをしてます。
休める時間が少ないので体調管理に気を付け頑張ります。
被災地の様子は悲惨な状況です。これでも少しは良くなった方との事です。
家は崩れ瓦礫の山、ボロボロの車が積まれてます。またご連絡します。

災害派遣職員レポート

№１２　Ｈ２３.５.１０

山田町に派遣されている松下職員・杉山職員より、現地での様子と写真が送られてきましたので、お知らせします。

えびな南　松下職員より

震災から二ヶ月。ボラセンも恐らくは混乱期を抜け、立て直しの時期となりました。その為、今日明日は岩手県全域においてボラセンが休みとなり、私共も出張中唯一の休みを頂きました。

私達は休みですが、ボラセンの裏方部隊はこの二日間で新たな指標を見つけるべく働いているかと思われます。

本日は私が寝坊したため（…）、午後からの行動となります。南下して釜石の沿岸部を見回ろうと思っていますがどこまで行けることでしょうか。

明日の予定ですが、以前渡辺相談員と藤村補佐が調査したと思われる（未確認）久慈市の追跡調査に入る予定です。

明後日以降の後半戦ですが、全社協としてはマクロ的な動きよりミクロ的な動きに移行しそうです。山田町は、沿岸部はともかくとして全体的に施設の被害は少ないらしく、被害状況調査の優先度は落ちてきました。それよりも連休明けはボランティアの絶対数が落ちると予測されるので、そちらの助力に回り、現場の声を聞いてみたいと思います。

写真は拠点地近隣の老健です。沿岸部の為全壊、入居者も 76～80 名死亡とのことです。画面の右上の屋根の上に車が反転して乗り上げているのがわかりますでしょうか？

中心荘　杉山職員より

近況報告が滞り申し訳ありませんでした。先日電話で副所長にお伝えした通り毎日、山田町のボラセンで受付業務やニーズ調整、後は保育園の被害状況調査をしています。デイサロンに関しては、山田町社協の方が進めており、当日の手伝いのみ関わらせて頂く事になりそうです。

社協の調査に進捗等が無い時は、積極的にボランティアに参加し被災者のお宅に伺い瓦礫の撤去や窓拭き、皿洗い等を行っております。

折り返し地点となりましたが、限られた貴重な時間の中で少しでもお役に立てるようにしたいと思います。

災害派遣職員レポート

№１３　　Ｈ２３.５.１２

現在、陸前高田・気仙沼そして山田町とそれぞれ２名づつの職員が滞在し、介護などの支援にあたっています。被災地のみなさんも避難生活が長くなりお疲れとは思いますが、元気に頑張って生活されている様子です。支援する職員も、精神的にもストレスが溜まる状況で頑張ってくれています。

本日、日本財団の補助を受けて購入、わかばケアセンターで使用していた送迎車両が、宮城県の東松島市の施設で使っていただけることになり、担当の方から連絡をいただきました。

デイサービス再開のめどが立ったということでした。一日も早く役に立てればと思っています。

陸前高田で活動している　中心荘　白石職員よりが電話で　５月１１日６：００頃

こちらのノロは減少傾向にあります。しかし、他の地区でインフル B 型 1 名、ノロ 20 名が出ている地区があるとのこと。引き続き十分気を付けて対応します。

勤務は早日勤 6:00～21:00（仮眠 21:00～6:00）、中番 17:00～1:30（仮眠 1:30～8:00）、

夜勤 1:30～21:00（仮眠 9:00～12:00）という形で行ってます。仮眠時間も休めないこともあり、長丁場なので、疲れたら声をかけて交替するようにしてます。

岩手県チームが引き上げるとの話ですが、まだ不明確です。もし引き上げたら、長期間滞在する中心会がリーダー的な役割を担っていきます。

被災した高齢者の方々は、悲観的になっている方もいらっしゃるかと思ってましたが、みんな暖かくて、明るいです。自立の方が多く、注意する方は麻痺の方１名と全盲の方１名。介護というよりはコミュニケーションがメインで、私たちに被災前と後の写真を見せてくれたり、いろいろ話をしてくれます。また、折り紙、トランプ、風船バレーなどレクを行ったり、在宅復帰に向けて ADL を落とさない様にリハビリを行ったりしています。インスリンの方もいますが、ご自分でできるので、見守り程度です。中心荘第二の利用者とは全く違うので、勉強になり、レクなどでは「これは第二のご利用者にも使えるかも」と思いながらやったりしてます。皆さんは今まで畳の上に毛布を敷いて寝ていましたが、今日マットが入りましたので、より良い状態で寝られると思います。

気仙沼で活動をしているえびな南高齢者施設 中橋功職員より　５月１２日電話で

避難所で暮らしている方の中には、介護ボランティアや介護を受けている人に嫌味を言う人がいる。

例えば休憩時間にボランティアがタバコを吸っていると、「ボランティアがタバコをふかしている」というクレームがつけられるので、行政から‘ボランティアと分かる格好で喫煙しない’というお達しがでるかもしれないと聞いている。

介護を受けている人への嫉妬もあるように見える。

プライバシーは全く守られず、おむつ交換も仕切りなしで行っている。せめて、衝立でもあればと思う。衛生状態も良くないので、感染症が発生したら一気に広まる可能性がある。

物資は充分にあるので、 持参品はあまり考えなくてもいいです。

災害派遣職員レポート

№１４　　Ｈ２３.５.１２

５月１日より山田町で活動している、えびな南高齢者施設　松下職員より日々の活動報告が寄せられています。

後に続く職員へのアドバイスも盛り沢山です。あともう少し、１５日まで彼女の活動は続きます。

いろいろ、葛藤もあったようですが、元気に活動してくれていることをうれしく思います。

５月１０日

岩手は神奈川より季節が一ヶ月遅いのか今でも桜が見られます。被災地でも津波によってできた瓦礫の山の隙間から蒲公英が花を咲かせており、自然の力にただただ圧倒されるばかりであります。

昨日は南下して大槌町、釜石市、大船渡市まで行ってまいりました（余談ではありますが、提出しそびれた報告書を昨日の午後に大船渡市から投函しましたので岩手の郵便事情がどれ程復旧したのか御確認ください。提出が遅れて申し訳ありませんでした）。

やはり沿岸部の被害が大半を占めているような印象を受けます。この表現は不適切かもしれませんが、戦後であるかのような町並みが広がっており、これからの復興に何年かかるのかと思うと言葉になりません。

５月１１日

本日は逆に北上して田野畑村、普代村、野田村、久慈市を回って参りました。お手元に地図があるならば是非御覧ください。特養、障害、保育園の調査に出向いたのですが全体を通して言えることは、物資、人手は足りているということでした（ゴールデンウイークを過ぎたあたりからどうやら落ち着いてきたようです）。それは基本的に良いことですので安心しております。

ですが現実として個々人の話になればそうも言ってはいられません。宮古市の障害施設の方から話を伺うと「宮古はまだ良い。本当に（山田町は）更地になってしまった」とのことです。しかしそう話すその方自身も被災されており、また同僚の方も「新築一ヶ月の家が流された」「二階建ての家が（一階部分は流されて）平屋になってしまった」このような話を聞く度、言葉に詰まってしまいます。今後、全社協として山田町とどう関わっていくのが山田町にとって良いのか迷っております。

明日は午前中は以前説明したデイサロンの手伝い。午後はボランティア業務に配置されるかと思われます。

５月１２日

本日は午前中、織笠保育園の炊き出し。午後は物資の配給に立ち会いました。二時半から船越防災センターにて物資（一人につき、菓子パン一個、ジュース一缶、缶詰一個、バナナ一本、卵一個、マカロン三個）を支給するのですが、１時間程前から一人並び二人並び、最終的にはおよそ 220 人を超過する列ができました。買い物をしたくても近場の店は被災しており買い物一つままならない現状を突き付けられた思いです。

災害派遣職員レポート

№１５　Ｈ２３.５.１４

気仙沼・山田町・陸前高田に各事業所より６名の職員が派遣されています。それぞれの場所で、全員元気に頑張ってくれています。派遣されている職員からの報告です。

えびな北高齢者施設　唐澤職員より

避難場に行くまでに気仙沼港を見せて頂きました。バスの車中でしたが何か匂いがわかりました。

そして瓦礫や建物に流れた車の残骸…

同じ日本で同じ空の下でこんなにも見ている風景が違うなんてと愕然としました。

言葉にならない。　私は今日まで他人事のようだったと感じます。ここに来なければわからないものは絶対にあります。

避難場の方は私たちをすぐに受け入れて下さいました。

皆さんが自分がなぜ此処にいるのか、話をしてくださいます。何度同じ話をしたのだろうと思います。でも伝えたいのだと、悲しみや悔しさを伝えたいのだと思いました。

妹さんが目の前で波に飲まれた方がいます。もう身寄りはありません。家も服もお金も何もかも。その方は、神様に私が生かされたのだから、精一杯生きる。貴方達が此処に来てくれるから元気でいなきゃって思えるんだよ、ありがとうと言われました。

また、家族がいるから生きる。

意識を失い目を開けた時に家族がいた。助けてくれた。家族がいてくれて良かった。

と強く伝えてくれた方もいます。

欲しいものはない。今ここで生きている命があるから。と言われた方もいます。

絶対に、実際に見て聴いて感じることで必ず心に落ちるものがあるはずです。

ケーウェーブで私が担当している生活者は２２名です。必要な情報は得ました。

リーダーなので１日二回医療ミーティング看護ミーティングにでます。各専門職は他県からの集まりですがさすがプロです。求められているものを果たしていることがよく分かりました。 私も漏れなく担当している方の情報を得る為に動きました。知りません、分かりません、はないように。

しかし観察、特変などを簡単に申し送る道具がなく、申し送り日誌を作りました。

次に繋げるために、上手く活用できるようにしていきます。

各専門職は当たり前に介護部門に情報を投げ掛けます。　新しい職員なんて関係なしに。

生活者の時間は止まりませんから当たり前です。これから派遣する職員は心得るべきと感じています。　また床に布団を敷いて寝ている為安楽な起き上がり方などの小さな工夫を求められています。

また在宅で生活ができるように、身体機能が落ちないよう生活リハをすることなど

ただのボランティアではないというのはやはり、専門職だからやれることということです。

そしてここで生活されている方の思いを察していく事ができるか、だと感じています。５日では足りないけれど、後悔しないようにやりたいと思います。

また今日から毎日シャワーが開放される事になりました。

ほぼ女性で同性介護を希望されていますので、入浴の回数や時間を聞き取り、私一人でも対応できるよう工夫して計画を立てました！今の一番の楽しみであるため、なるべくニーズを果たせるように継続できるように次のチームに引き継げるよう計画してみます。
まだまだやりたいこといっぱいです。明日からも元気を頂きしっかりやります
ただ人手がないのでこれから少し夜勤に入ります o(^-^)o
南の井上さんも元気です。>> 臨機応変に動いてくれています。小さなチームでの仕事なので皆が同じ動きができるよう、同じ視点でケアできるようにしたいです。
長々申しわけありません。
えびな北のみなさんはお変わりありませんか？恋しくなります。
でも今は此処で生活される方を守ります。 皆さんがいるから、安心しています。
いろんなものをノートに書き留めて帰ります。

追伸

同性介護のこと、県に伝えています。
ケーウェーブのニーズ的に女性同性介護を希望する方ばかりです。さらに今日からシャワーが毎日できますので毎日シャワー浴に関わります。そのため男性女性半々にしてください。ということ。
炊き出しについては今後支給がなくなります。今日の話では明日からとのことになりましたが
急なために県が話をされて、２０日からは持参の食事や県からの物資になります。この先いかれるかたにはまたお知らせいくと思います。感染グッズは十分あります。マスクエプロングローブ。ただ手洗いが十分できないこともありますのでエークイックは職員用に持つべきです。また気がついたことは報告します。

菅原所長より

唐沢課長が、心で肌で頭で感じる力に磨きをかけたようです。
もともと持っている唐沢課長の感性がさらにこの被災地での体験が刺激されたのでしょう。
次に被災地に行く職員は、唐沢課長のこのメールを参考にして被災地に向かってください。
プロの介護を提供するということが求められています。

気仙沼で活動しているえびな南高齢者施設　井上職員よりの報告です。

二日目は夜勤と日勤がありました。4時間勤務なので仕事自体はそんなに大変ではありません。
今日から女性の避難者は希望すれば毎日シャワー浴が出来る様になりました。
食事なのですが、避難者と同じ物を僕達が食べるのはおかしいと一般の避難者から意見がでまして、食事をどうするのか話し合っていたのですが夕食は普通にでまして・・・、明日どうなるかはまだわかりません。自分達でコンビニ等で調達する事になるかも知れません。

山田町で活動している　中心荘　杉山職員からの報告です。

杉山は元気です！今まではボラセンの受け付けを行ってましたが、今日は避難所になっている山田高校で介護職員を行いました。

避難所では､愛媛県から夫婦で来られている 2 名の方が介護のボランティアとして活動しています。山田高校には 361 名の被災者がいるのですが、要支援の方が 8 名いて、この方たちを 2 名の夫婦がみています。8 名を 2 名でみているといっても、要支援の方たちは同性介護を求めているので、実際は奥さんだけで行っている状況です。

しかし、この夫婦が 5／14 に愛媛に帰ってしまうというのです。またその後に介護提供する人はいないとのことでした。「どうなっちゃうわけ？」という心配があって、「私たち介護経験があります！」と手をあげました。そのようなわけで、今は介護職員として活動してます。お風呂、洗濯、排泄などです。

避難所には山田町社協の方たちがいるのですが、誰が仕切っているのか分からない状況でどうやらうまくまわってません。5／15 からの介護提供について、私たちも帰ってしまうしどうするのかということを全社協の方に相談しました。山田町社協に確認して応援派遣必要ということで動いてくれましたが、その後山田町社協から「ヘルパーがいるから大丈夫、自分たちでやっていく」という話がありました。その後も「応援必要」「不要」の意見がまとまらず混乱してました。結局は、山田町社協がヘルパーを使って自分たちでやっていくことになりましたが。

私たちは帰るまで、ここで介護職員として頑張ります！

山田高校の介護についての方針の混乱があったようです。災害時にはこうした混乱はしばしば起こりがちですが、杉山、松下両職員は、めげずに頑張っているようです。

陸前高田に行っている　中心荘　白石職員よりの報告です。

慣れてきました！（ハツラツとした声！）感染症のノロやインフルエンザの方は、公民館など別棟で部屋を変えて対応してます。ノロはもう心配なく、後はインフルエンザだけです。

今後、岩手県支部、介護福祉士会、中心会、全社協で話をして決まりますが、中心会がリーダーを行っていく方向です。ボランティアの人数把握やその他行うべきことは、こちらで相談しながらやっていきたいと思います。また決まったら報告します。

介護記録は一人一人のノートが引き継がれているので、手探りではありません。看護サマリーもあるので、予測しながら介護できます。

体操やレクなどやってますが、中には溶け込めない、溶け込もうとしない、また、よって来るなというような方もいられます。そのような方にも声かけや衛生面の管理、見守りを行ってます。

徐々に利用者は減っています。昨日は 2 人の方が仮設住宅に移られ、今は 14 人が対象者です。でも今後、別の棟から介護を受けるために、ここに移動してくるかもしれません。仮設に移られた 2 人の方には、折り紙と割りばしでゆりの花をつくり、プレゼントしました、仮設住宅は殺風景なので…それから利用者や家族と、復興を願って千羽鶴をつくっている最中で、今 800 羽くらいです。

災害派遣職員レポート

№１６　Ｈ２３.５.１４

気仙沼で活動していたえびな北高齢者施設　高橋卓矢職員が帰ってきました。早速、現地での体験を報告してくれました。

えびな北高齢者施設　高橋職員の報告

　あっという間だった。介護が必要な方々には受け入れられたが、他の被災者の方たちには、かなり厳しい対応を受けた。声をかけても知らんふりされたり、食事は、介護が必要な方に先にどうぞというルールができていたのだが、それを不満に思う方がいて「なんであいつらが先なんだ」と言われたりした。あれだけの辛い災害の中で助かった方たちで、これから先の不安が大きいということの表れであるのだろうと思った。
　介護の記録や、ルールを作ることに目が向けられた。山形からのチームに凄い人がいて、どんどんと仕切ってくれて、アドバイスしてくれて、まとめてくれた。
神奈川の代表・中心会の代表で行ったのだが、緊張した。上手くできるかどうか・・・。
　山形の施設の方とメールアドレス交換してきた。機会があったら見学に行ってくる。
介護で仲間ができた。・・・・。
　被災地に行かせてくれて、ありがとうございました。また行きます。

菅原所長より
　他にも話したいことは、たくさんある様子で、体験記を書いてと、お願いしました。
高橋さんの切り口は、「介護する仲間」への視点が大きかったようです。
派遣に出してくれた仲間、施設を支えてくれる仲間、一緒に被災地で介護をした仲間ということへの気づきがありました。被災地に行った職員はどんどん話をしてください。残っていた職員は、どんどん話を聞き出してください。凄い体験をしてきていますので、みんなで共有しましょう。

陸前高田市で活動している　増田職員の報告です。
　体調を崩した。日赤にかかって薬をもらって来た。熱は無いので、大丈夫。感染症も大丈夫。
介護に影響なし。
　感染症については、ノロウイルスは介護が必要な方には起こっていない。インフルエンザが出てきている。介護状態は、軽介助である。寝てばかりいるような方がいて、気になる。
楽しいことに目を向けるようにしたいと、レク等考え実施している。
記録・引き継ぎ・ミーティング等は上手く行われてきて、情報の共有は行えている。
あと少しだけど、しっかり頑張りたい。被災地の方には、全ての皆さんに受け入れられている。
わかれるのが寂しくなってしまう。

岩手に２回目の派遣で向かった、えびな北高齢者施設　渡辺健司職員よりの報告です

　今回は、自宅にいる被災者の介護ニーズの把握が主な仕事である。
よそ者である自分たちが受け入れられるかどうか、不安がある。
お宅訪問は、民生委員さんにお願いして、同行していただく予定である。
　話を聞いていただくまでに行かないかもしれない。

前回の派遣で、施設ニーズを確認に廻ったが、その時でさえ話を聞いていただけない、受け入れてもらえないということがあった。個人の場合は、もっと壁が高いかもしれないと思っている。

土日は、ボランティアコーディネイトのサポートに入る予定である。
明日１４日は、移動日で、翌日１５日からの活動になる。

菅原所長より
　前回の体験がある為か、個人宅訪問にプレッシャーを感じている様子がうかがえました。
　被災地の方々の心情に触れながら、困っていることを情報収集することは、生活相談員のスキルを試す凄くいいチャンスです。
磯田さんのＨＰのレポートにあった内容を全ての被災者は経験しています。
その状況を踏まえて個別に関わってくることで、
渡辺さんの覚る、感じる、気付く感性が成長してくることを期待してます。

災害派遣職員レポート

№１７　Ｈ２３.５.１８

岩手県陸前高田で活動中の　中心子どもの家　遠藤職員の電話報告の内容をいただきました。
遠藤職員は、中心子どもの家のトップバッターとして、満を持しての遠征です。

中心子どもの家　遠藤職員より

「地震が起きてから２か月が経過したが、ニュースで見る現場の風景と自分の目で見る現場の風景は違う。とにかく、ガレキの山がものすごい。昨日は、打ち合わせの他、現場でガレキの片づけを行った。明日（月曜日）より本格的な訪問調査を職能団体と一緒に行います。
行政と全社協、地区社協が現場に入っているがそれぞれの連携ができてなくて、多少混乱しているが、とにかく頑張ります！」といつもと変わらぬ元気な声で話してくれました。

曽我所長より

震災後、被災地派遣に真っ先に手を挙げていただき、子どもの家の職員として第１号で岩手で頑張っている遠藤さん。遠藤さんの姿は子どもの家の子どもたちにもきっと良い影響を与えてくれると思います。

気仙沼で活動中のえびな北　唐澤職員より

報告おくれまして申しわけありません。渡辺相談員に会いましたよ！
元気でした。調査にきてくれました。同じ法人の仲間が頑張っている姿を見たら嬉しくなりました。
私は楽しくやっています。　体調もバッチリです。
性格なのか…いろんな事やいろんな人が気になり始めてきてしまい m(__)m
ここで帰るわけには…なんて感じてしまいます。　寂しさもいっぱいありますけれど(;_;)
いつ関東でも起こるか分かりませんので、自分たちの時の為に課題となる事は、持ち帰ります。
生活を支える訳ですから、基本の生活支援技術の中だけでも避難場でのマイナス面がかなりあり、市の方へ繋げ少しずつ改善できたらと思います。
また２ヶ月避難場にいるわけですから、始めは支援がいらないとされていても、環境の変化により生活も代わり必要になる方も見えてきています。
受け持ち以外でも、気になる人は看護や医療につなげていきました。
医師や看護師や薬剤師の方は志が高く、またチームワークを大切にしていて各分野の専門性を生かしています。
あそこに聞けば大丈夫。と思えますので、相談もしやすいです。でもそれはお互いです。
一番近い場所で生活を見ている介護からの情報は頼りにされます。
内服薬の情報、疾病…知らないと変化にも気がつかないため情報をもらうことは必要ですので調べてみたりしました。
生活に楽しみを作るためにいろんな工夫もありましたよ。なるべく寝たきりにしないように気晴らししたりしています。あとは被災者の方のコミュニティがすごいです。お互いに励まし支え過ごされています。話が長くなりますので帰ってからのレポートにしますが、一つだけ。
これから派遣されるかたには、生活支援のために入居者の方をいろんな角度から見て感じて、より良くできるように投げ掛けられるようにしてください。
ニーズはそれぞれ違いますが、避難場のマイナス面を踏まえて、工夫できるようにしてほしいです。

ただのボランティアでは行かないでください。言われた事だけしていればいいのではないと感じています。気がついた事は発信していけると、生活者が守られます。 言われた事だけやるのなら、避難場は支援の方ばかりなので見守るだけになります。 何の為に派遣されているか心得て行ってほしいと思います。少しずつ仮説住宅や他の場所に移れる方も出ています。

在宅介護や高齢者施設がどのような状態であるのか気になります。

まだまだ力不足だと感じていますが、次のチームへしっかりと引き継ぎします。

菅原所長より

被災地派遣で何をするべきかを考えて行動しています。また、その中で見えたこと、気づいたことをつなぐべき所につなごうと動いています。 「指示待ちになっては駄目である。気づいたことは、発信すること。」これは、被災地だけの事ではないです。日常の仕事の進め方ですが、 なおさら指示系統ができ上っていない場所では絶対条件です。これから、被災地に行く方は、この点を心において行動してください。

陸前高田で遠藤職員と活動している　えびな北高齢者　渡邊職員より

「指示が明確でなく何をすればいいのかわからない。」

「気付いたことをやってくれと言われるが、地元の方の誘導がなければ個別訪問はかなり難しい。」

「効果的に動けない状況になっており、自分たちがこちらに来た意味が無くなってしまう。」

「どうすればいいのか、誰の指示を受けていいのかもわからなくなっている。」 と、昨日、ＳＯＳがありました。

菅原所長より

場所と介護が必要な方が決まっていて介護するという明確な行動目的がある介護支援チームとは対象的な状況になっているのが相談・情報収集を目的に動いている福祉相談支援チームが困っています。派遣に行っているみなさんが、限られた時間の中で必死に自分の役割りを探し,行動している様子が素晴らしく、感動しています。

気仙沼からの帰路　えびな北高齢者施設　唐沢職員より

お疲れ様です。今帰りです。本当に貴重な体験をさせて頂きました。

目を閉じても何をしても､今は今回出逢えた方の顔や生活そして瓦礫に埋もれた気仙沼が浮かんで、涙が出てきます。人として、人生観が変わった気がします。

一瞬で何もかも奪われた時に、生きる希望を無くした時に、何を大事にするのか。

当たり前の生活にどれだけ感謝できているのか。そしてそのような状況になっている方をどう支えるのか。今私達が日々出逢う方達に対しても同じです。私は本当に素晴らしい仕事をさせて頂いている、そう感じます。マザーテレサの言葉や行動が幾つか浮かんできました。

自分にもっともっと知識や感性が高ければ、いい気付きを残して良くしてこれたのだと思います。

だからこそ人間性、専門性を高める事に必死になろうと思います。１日１日生きる事に必死な方を見たら、自分はまだまだと情けなかったです。

バックアップしてくださった法人、仲間上司に感謝しています。

皆さんがいたから気仙沼に来ることができました。本当にありがとうございます。

そして被災者の為に派遣を希望してくださった方にも感謝しています。

ひとり一人の力や繋がりが大きな力になっている、ほんの一瞬でも被災者の方の生活を守れている、そう信じて、これから行動していきたいです。

災害派遣職員レポート

№１８　Ｈ２３.５.２５

岩手で活動している、えびな北高齢者施設　渡辺健司さんより

岩手で、ボランティアセンターの手伝いや、個人宅の訪問をしながら個別ニーズの聞き取りをしています。時には、お宅の片づけ等をしながらの訪問をしています。

ゴールデンウイークが過ぎてから、被災地でボランティア活動をする方が激減していることが、気になっています。　職員の皆さん、お子さんや、近所の方に話して被災地でのボランティア活動をしてみないかと投げかけをしてくれませんか。

高齢者世帯などが多くて住民だけではとっても家の中や、周囲を片づけられない状態になっています。行政機関も多くの職員が津波で流されてしまい動いていないのが現状です。
他県や市の行政の助けを受けていますが、地域を知らない担当者では動きようがないようです。

現在の活動は、包括の保健師や、民生委員の援助を受けて個別訪問しています。方言が聞き取れなく困ることがあります。個別ニーズの聞き取りは、生活相談員として当然のスキルですので、出来るだけ生活者の声を受けて介護ニーズだけではなく、ボランティアニーズ等を把握して次につなげられる様にしたいと考えています。

陸前高田で活動している　海老名北高齢者施設　渡辺　弘さんより

陸前高田市で介護リーダーとして奮闘中です。仮設住宅ができて来て、そちらに移動していく方が出ています。しかし、住宅環境が変わってしまうこと、地域コミュニティーが変わってしまったこと。訪問介護等の事業が上手く運営できているのか等の心配があり、仮設住宅に移ることが進歩したことになるのかが気になっています。

避難所には、介護職・医療職（医師・看護師・ＰＴ・ＯＴ）がいてメニューが作られサポートされている。生活環境は悪いが人の目があるし困ればすぐに手助に行ける。仮設住宅では知り合いがいない。住宅が建てられている場所が砂利道で、介護が必要な方には歩きにくいために引きこもってしまうのではないか。と想像しています。行政の方や、介護事業所に話す機会があるのできっちり伝えていきます。あと１週間しかないですが、しっかり役目を果たしていきます。

岩手での活動に向かった　えびな北高齢者施設　川村由香さんより

中心子どもの家　伊崎直樹さんと岩手に向かう途中、東松島市に福祉車両を届けるために立ち寄りました。（伊崎さんには８時間余りの運転になってしまいました。お疲れ様でした。）

２４日に、東松島に着きました。わかばの送迎車を障害者の通所施設に寄贈しました。非常に喜んでいただけました。事業を再開したくても必要な道具が無くて出来ない状況になっていました。この夜は、この施設に泊めていただき、明日（２５日）の朝に古川駅まで送っていただきます。岩手に入り渡辺健司さんたちとと合流します。

渡辺さんからは、電話をもらって自分の仕事のイメージができました。個別訪問をして生活ニーズを聞き取りするということです。不安があります。すでに多くの方が活動した後に自分が行って何ができるのか？聞き取りをすることだってもうないのではないか？そんな事を考えてしまいます。

（個別ニーズは世帯ごとで違うということは理解しているね？包括で動いているときは、数回

に分けて関係を作ることができるけれども、今回の場合は、訪問は一回きりになるかも知れない。そのような関わりの時にできることは何だろう？？：菅原所長から問いかけ）

そうですね。いつも自分で気をつけているのは、話しやすい雰囲気を作ることを意識しています。それを続けていけば本当のニーズを引き出すことにつなげられることができますね。頑張ってみます。訪問先の方が、言葉にできないことを感じた時に、その方に言葉にして「このようなことではありませんか？」って返してみます。

菅原所長より

　３人とも、自分が被災地でできることを一生懸命に考えて悩みながら取り組んでいます。
遠慮？するような、自信がないような？引っ込み思案になりがちな？そんな気持ちが出て来てしまうことが言葉の中に見え隠れしました。
自分の行動が被災地の方々にどれくらい影響を示せるのか、なんのために被災地に行っているのかを再度投げかけすると、
３人とも、そうだった！！わかった！！頑張ってみる。と反応してくれました。
良いですね。今回の行動は、全て自分の意思で、自分の決定で動いている人たちです。
だから、自分で考えて動けるのです。
失敗もあるかもしれないですが、良い経験をさせていただいて、笑顔で帰ってくることを待っています。

災害派遣職員レポート

№１９　Ｈ２３.５.２６

陸前高田で活動している、えびな南高齢者施設・新庄職員からの報告です

１５時半に陸前高田市立第一中学校へ到着しました。中学校は高台にあるためか、とてもきれいな状態ですが、中学校に到着する前に通った道路沿いは、今もひしゃげた車や瓦礫の山々がありました。

全社協の吉村さんより、「これでも以前より片付いてきたんですよ」と言葉があり、今でも凄まじい光景であるのに、地震があった直後はどれほど凄い光景だったたんだろうなと思うと、身体が震えました。また、あまりにも想像を絶する光景であったので、自然のなせる力をあらためて思い知りました。

避難所にいらっしゃる高齢者やボランティアスタッフは皆さんとてもいい方達です。自己紹介で皆さんと言葉を交わしたときに、これから楽しく活動していけそうだ、という手応えを感じました。これから段々とひとりひとりの名前を覚え、持ち前の明るさで積極的にコミュニケーションを図っていきたいと思っています。（ちなみに高齢者の避難所であり、今回の活動拠点となるのは視聴覚室です。一般の方は体育館で過ごされているそうです）

また、中心会メンバーはリーダーのお仕事があります。毎日９時と１６時にボランティアスタッフミーティングを行い、１６時３０分からはグループの代表として全体ミーティングに参加します。今日はえびな北の渡辺さんと一緒に１６時と１６時３０分からのミーティングに参加しました。また、今日は１９時から避難所の運営会議もあったので、そちらにも参加してきました。

今日はこの後、１時半から９時半まで夜勤に入ります。一緒について下さるボランティアスタッフに色々教えてもらいつつ、避難されている方の状況がまとまっているノートを読んで情報収集に励みたいと思っています。

あと、自分の生活に密着した小ネタなどもこれから発信していきたいと思っています。ちなみに今日わかったことは、陸前高田では電池式の充電器は不要だということです。ここではコンセントで充電を行うことができるので、今後派遣で陸前高田へ行かれる方はＡＣアダプタのみの持参で大丈夫です。あと、食事は３食賄いで出るので心配はありません。布団も、寝袋ではなく、マットレスと掛け布団・毛布が用意されています。思っていたよりも快適に過ごせそうです。

理事長より

元気そうですね。

日頃所属する組織の異なる混成部隊では、いつも以上に正確な（５Ｗ２Ｈ）コミュニケーション（情報伝達、情報取得）が求められます。さらに中心会の職員は現地ではリーダー役を任されることが多いようですから、一緒に活動するメンバーに的確な指示、伝達が求められます。

災害派遣職員レポート

№２０　Ｈ２３.５.２７

陸前高田で活動している、えびな北高齢者施設・渡辺職員からの報告です

川村職員と伊崎職員には昨日陸前高田で引き継ぎをしました。今回の任務は混沌とした中で難しい仕事でした。川村職員たちも大変だと思います。

中心会は陸前高田の社協の後方支援というより、社協が今何をすべきかを考え、一緒に再建に関わっていくことを期待されているようです。今後も継続的な中心会の関わりが求められています。後方支援というより前方ではないかと思います。ですから明確なビジョンは定まっていない状態です。

それでもこの二週間で仮設住宅の寄り合いサロンの構想が立ち上がりました。今後どうなっていくのか楽しみです。

菅原所長より

中心荘の渡辺職員からの連絡（災害派遣職員レポート№20）にあった、「避難所から、仮設住宅に移って行く人が出てきている。その方々の支援ができるようにしないと安心して仮設住宅に行かせられない。」といっていたことにリンクしていきます。

支援方法として「寄り合いサロン」という形がとられるということも一つの方法なのですね。全く違う場所で動いている 2 人がこのようなつながりになることで、同じ状態で生活している方々の支援をしているのだということがわかります。被災地の状況が少しずつでも、前に進んできているのですね。

これから、佐藤職員・青木職員が被災地に入ります。その次に、志水職員・西職員が行きます。

行くからには、何をしてくるか？何をしたいのか？目的を持って行ってきてください。

各課長と自分の目的を確認して行くようにしてください。その内容は、管理職までご報告ください。みなさんの報告を楽しみに待っています。

気仙沼で活動している中心荘　中村職員からの報告です

今日は現地に到着し、引き継ぎを受け、一部のメンバーは 20:00 から活動に入っています。メンバーは介護経験が 2～3 年の方が多く、私は、リーダー番として動くことになりました。いろいろな記録に目を通したり、仕組みなどを見てみると、やはりえびな北の唐澤職員の痕跡が随所に見られますね。

これから自分のすべきことを探っていこうと思います。

三浦副所長より

えびな北の唐澤課長の取り組みが役立っています。中村課長もこれから現状を把握しつつ、自分に何ができるのかを考えながら、臨機に行動してくれるものと思います。